

# 人間再発掘シリーズ



5度目の五輪目指す重量挙げエース 宮紅美恵（くみえ、当時自衛隊）と

## 【デイリースポーツ制定「ホワイト・ベアスポーツ賞」受賞者編】

宮紅美恵（くみえ、当時自衛隊）とリフティングを始めてまだ3年と数に苦しみ、結局、兄・義信だけが1知られるが、40年前、出られなかったというレスリングに初めて女子種目の接戦に、宏実はジャークの1本目をた五輪の記憶はそのまま、娘に全てが加わり、吉田沙保里、伊調馨の2を失敗してしまう。大きなプレッシャーを背負うなか、ふと思いついた学生へと環境が大きく変わる難しさ。さらに体重を48kg級に落としての挑戦と、短いキャリアの間にも大きな壁は多く存在した。宏実は、夢が3年ではなかった理由を「父の存在があったから」と話す。

「最後は練習量の勝負だ」  
「ここで代表の座を逃したら、待たなきゃいけない4年とは、とても長いよ」

共にとータル180kgを挙げて並ぶ大接戦となったが、体重が軽い選手のほうが勝利するルールで宏実が政大入学後、1964年に開催された東京オリンピックを1年生で目指していた。しかし環境の変化、ケガ

「父の失敗談を生かし、キャリア3年でアテネ五輪切符」

04年5月、全日本選手権女子48kg級で優勝した宏実と男子77kg級優勝の兄博



「同じ過ちを娘には絶対にさせたくなかった」  
義行は後にそう話している。難しいとされる大学1年生で初の五輪出場を実現させたのは、父の正確な「五輪マップ」があった話だった。アテネ五輪は女子アスリートたちにとって勢いをもたらす大会だった。これまで男子のみで行われてきた。 宏実はそう思った。 敬称略